

【訂正】

『生物の科学 遺伝』2020年9月発行号(74-5)で、  
グラビアⅡ「戦災樹木としてのイチョウ」P.486の  
天祖神社の所在地は、文京区ではなく豊島区、  
住所は、豊島区南大塚3-49-1であると  
執筆者より連絡がありましたので、訂正いたします。  
同ページおよびP.481のマップのページイメージを  
以下のページに掲載いたしますので、差替をお願いいたします。



## 戦災以外での 東京の焼け残り イチヨウ

### 首賭けイチヨウと松本楼

1901年、日比谷通り拡幅工事にともない伐採寸前のイチヨウを、本多静六が「首を賭けて」現在地に移植、保存した。1971年、過激派組織による火災瓶火災で松本楼が全焼。隣接するイチヨウも類焼したが翌春には新芽を吹いて復活した。



唐沢 孝一  
*Koichi Karasawa*

都市鳥研究会 顧問 /  
 NPO法人自然観察大学 学長

1943年群馬県生まれ。東京教育大学（現筑波大学）理学部卒業。専門は鳥類生態学。都立高校の生物教師をへて、現在は執筆、講演、自然観察会講師など多方面で活動している。都市鳥研究会顧問、NPO法人自然観察大学学長。著書に『カラスはどれほど賢いか』（中公新書、1988）『目からウロコの自然観察』（中公新書、2018）、『身近な鳥のすごい食生活』（イースト新書Q、2020）など多数。

【文京区】 昭和20年5月25日・戦災



光円寺（文京区小石川4-112-8）のご神木の焼けイチョウ。



善仁寺（文京区小石川4-13-19）の墓地の中に残る焼けイチョウ。

【豊島区】 昭和20年4月13日・戦災



天祖神社（豊島区南大塚3-49-1）の1対の焼けイチョウ。右は、焼けた神木の中の1本。

